

2020年1月号

市保連主催 シンポジウム

「考えてみませんか？すべての子どもに保障したい保育の質」開催

しました！

2019年11月24日（日）に佛教大学二条キャンパスで、市保連主催のシンポジウムを開催しました。当日は、保育ジャーナリストの猪熊弘子さんに「ひとりひとりが大切にされる保育とは」というテーマで基調講演をしていただき、その後、猪熊さんを交えて、保護者（朱い実保育園・峯山さん）、保育士（朱一保育園・岡本さん）、園長（みつばち保育園・丸国さん）、コーディネーターに田中（市保連事務局）でパネルディスカッションを行ないました。



猪熊さんの話からは、いろいろ保育をめぐる情勢が変わる中で、私たちが中心に考えなければならないのは「子どもを中心とした保育」のあり方だということ提起していただきました。保育の市場化の中で、多様な保育の実態があり、その中では子どもを置き去りにして、大人目線の保育（保護者の要望に応じて習い事などを詰め込む保育や、保育士が子どもたちをコントロールするための取り組みなど）が増えてきているということに危機感を感じているということで、改めて「子どもを中心に据える」ために「保育の質」（プロセスの質：環境を通じた保育、構造の質：保育を支える制度や基準、労働環境の質：保育者の働き方）を見直していかなければならないということをお話していただきました。



後半のパネルディスカッションでは、三者の立場において現在の保育現場における不安などをお話していただきました。保護者からは「ちょっと気になることがあっても、それを保育士と話す機会が無いので大きな問題へと進展してしまうことがある」ことや、保育士からは「本当は子どもや保

護者ともしっかり関わりたいけど、その体制がとれない」ということ、園長からは「今の制度の中では、こんな保育がしたいと思っても、実現できない」という悩みが出され、保育の質を支えるための配置基準のあり方を見直す必要が提起されました。また保育園とは「人が育つ場」であり、子どもも大人も（保育士自身が大切にされなければ子どもたちを大切にできない、保護者も悩みを受けとめてもらえなければ子どもに向き合うことができない）大切にされなければ良い保育環境は生まれないということが確認されました。

今回のシンポジウムを通して、保育園とは単に子どもを預かる／預ける場所ではなく、地域の社会資源として「そこにあること」が大事な場所だということ会場全体で共有することが出来ました。市保連としてもそのような保育を支える取り組みを、引き続きしていきたいと思います。



シンポジウムに参加された方の感想

猪熊さんの話の中にあつた「配置基準」を引き上げることの大切さ。それと、子ども1人ひとりが大切にされるというあたり前を市場化や制度で左右してしまう今の保育をめぐる情勢や社会のあり方に対して“知る”“何かしなければ”と思える場だったことが、とても大切なことだったと思ったので、また企画をぜひしてほしいです。シンポジウムで、保護者の思いや保護者の立場からの理解に勇気をもったし、保護者、園長として前に出ていただいたみなさんにありがとうございました。

一人ひとりの子どもが大切にされるために、子どもをより丁寧に关われる環境が大切であると改めて感じました。保育問題の大本は保育への予算の少なさにつながるし、社会の中の保育園を大切にすべきであると思いました。そのためにも保育現場、子育て現場の問題を社会全体に広げていくことが子どもの権利や保育の質、平等な保育を保つことに繋がると強く感じました。ありがとうございました。

・保育士が疲れきっている・・・現場にいて何とかするためには、配置基準の見直ししかないんじゃないかと思っていたので、猪熊さんのお話しがすごく共感でき、ぜひそのための運動をしようと思いました。

・子どもたち1人1人を大切にしたい保育をするには、大人も大切にされていると感じられる保育環境、人員体制が必要かと思いました。

・大好きな「保育」と大切な「保育士」を守るためこれからもがんばっていきたいと思えたシンポジウムでした。ありがとうございました。

配置基準が変わることも処遇改善になる。本当にその通りだと思いました。やりたい保育があってもこんな人数では安全を守ることが最重要なので楽しんで活動ができない→大人が楽しくない保育をしていて、子どもが楽しい訳がない。大人も子どもも心にゆとりをもって生活できるように、これからもこの最悪な基準を改善してもらえよう声をあげていきたいと思います。

今年2月2日(日)は京都市長選挙の投票日です！

立候補予定者に保育政策に関する公開質問状を出しました。

市保連で立候補予定者に公開質問状を求め、門川大作さん、福山和人さん、村山祥栄さんから回答をいただきました。市保連ホームページとFacebookページにて公開しておりますので、是非ご覧下さい。子どもが安心して育てる社会をつくってくれる市長を選ぶために、投票に行きましょう！



*「市保連」で検索、または右側のQRコードを読み取ってください。

聞きたいことはたくさんあるけど、質問項目は6つに絞りました。

- ①待機児童問題：潜在的待機児童や途中入園の待機児童を含んだ対策は？
- ②保育の質：保育士不足が深刻化する中で保育の質をどう守る？
- ③経済的負担：0～2歳児の保育料、2人目・3人目の減免制度はどうなる？
- ④給食：これから給食格差が出てくるかも。給食費の無償化や補助の拡大は？
- ⑤市営保育所：この間民営化を進めてきたけど、これからどうするの？
- ⑥お布団、おむつ：送迎時の持ち運び、持ち帰りの負担軽減はできる？

市長選挙の機会にたくさんの保護者の声を届けたいですね！

白い鳩保育園保護者会の活動の紹介をします。今年度は、以下の三つを柱に活動しています。

- ① 保育園と連携して、安心・安全な保育環境づくりに取り組む。
- ② 保護者がほっこり楽しめる場を作り、保護者同士のつながりを作る。
- ③ 無償化による制度の変化を注視し、保育の質が低下しないよう行政に働きかける。

一つ目の柱については、園庭プロジェクト、防災プロジェクト、絵本修理プロジェクトのチームがそれぞれ活動しています。

園庭プロジェクトでは、土曜日に保護者と保育士とが協働して、新園庭に築山をつくったり、ストライダー置き場を作ったり、野菜の苗を植えたり、園庭の樹に名札や鳥の巣箱をかけたたりしています。

防災プロジェクトでは、大人が防災の基礎を学ぶ講座と、子どもと一緒に学ぶ実践講座を開催しました。実践講座では、ハイゼックス袋で実際にご飯やパンケーキを作って試食したり、防災袋の中身を確認したり、地震が来た時の身の守り方を子どもと一緒に رفتたりしました。講座で学んだことをもとに、いざという時に役立つパンフレットを作成する予定です。

絵本プロジェクトでは、保育園のボロボロになった絵本を修理したり牛乳パックで乳児用のおもちゃを作ったりしています。

二つ目の柱としては、クラスレクや「白鳩 de 合研」を企画しています。「白鳩 de 合研」は、保護者が学ぶ「歯の話」、「性教育」、「就学前の疑問・質問」といった分科会だけでなく、「お父さんと遊ぼう」、「整体」、「風呂敷の包み方」などのお楽しみ企画の分科会も用意し、盛況でした。

三つ目は無償化問題についての学習会を開き、署名などにも取り組んでいます。

保育園と保護者は「サービスを提供する側、受ける側」といった関係ではなく、一緒に子どもを育てる仲間として、保育園というコミュニティを守り育てていく活動を保護者会を通じてしていきたいです。

【第4回保護者会活動交流会のご案内】

日時：2月17日（月）19時～21時

場所：こどもみらい館（4階第2研修室B）

<http://www.kodomomirai.or.jp/>

主な内容として、

- ①各園からの相談・悩みの交流、情報交換
- ②無償化など保育をめぐる最新情報の学習
- ③国・京都市への要望についての検討

などを予定しています。

各園の役員が抱える悩みを相談したり、他の保育園の情報を知り、多彩な保護者会活動を交流する機会です。お仕事と子育てで大変お忙しい日々と思いますが、ぜひご参加ください。未加盟の保護者会、保護者会の無い保育園からの保護者個人でのオブザーバー参加も歓迎します。

当日保育を希望される方は、2月3日までにメール(info@shihoren.net)にてお知らせください(保育料無料)。折り返し担当者からご連絡します。

